

令和6年度 西東京市立田無第三中学校 学校評価報告書						
学校教育目標						
○ よく考えずんで実行する人間になろう ○ 思いやりのある心豊かな人間になろう ○ 丈夫な体をつくり心身ともに健康な人間になろう						
目指す学校像（ビジョン）						
【目指す学校像】		笑顔とまごころがあふれ、夢を育む学校		○ 安心して自らの能力を伸長できる	○ 信頼でき、協力したくなる	○ チームの力を生かして、主体的に課題解決できる
【目指す児童・生徒像】		自治・社会自立に向けて、自らを高め合う生徒		○ 考える生徒	○ 思いやる生徒	○ やりぬく生徒
【目指す教師像】		生徒に寄り添い、挑戦を支援する教師		○ 学び合う教師	○ 寄り添う教師	○ 信頼される教師
前年度までの学校経営上の成果と課題						
授業力や指導力の向上について、生徒及び保護者から肯定的な意見が多かった。また、定期考査前の家庭学習について児童館を活用して取り組む生徒が増えた。生徒会活動や自他を大切にすることの育成に関する取り組みについて、生徒から肯定的な意見が多かった。社会に貢献する精神の育成について、地域のボランティア活動に取り組む生徒は多いものの、生徒の数値は低い。						
	具体的方策	第1回評価	課題と対策	第2回評価	学校関係者評価	課題と次年度以降の対策
確かな学力の向上と学習意欲	生徒が自分に合った学び方で学んだり、自分の考えを深めたり広げたりするなどの指導の工夫を行う。	3.4	全ての教科で、課題を解決したり思考したりする授業が展開できていない状況があり、生徒の主体性を育てる授業を充実させる必要があった。校内研究会を通して授業展開の工夫やICT機器の効果的な活用の仕方について理解を深め、実践していく。	3.3	○生徒は、家庭学習で何をしていたのか分からないのではないかと。 ○具体的にどんな勉強をすればいいのか勉強方法をアドバイスしたかどうか ○先生方の体験例や失敗例などを伝えながら生徒が帰納的に勉強方法を身に付けられるとよいのではないかと。 ○授業改善推進プランは生徒に示して、先生方に具体的に取り組んでいただきたい。	校内研究会で主体的に学習する生徒を育成するための授業改善に努めたが、全ての授業において「生徒が学ぶ授業」になっていなかった。各教科等において、課題を解決したり、学び方を選択したりできる学習活動を実践していく。
	生徒が課題解決に向けて自ら考え、発表する機会を設定するなど、生徒の主体的な学びを促す実践を行う。	3.2	教師が自身の授業について、課題が明確でない実態があった。学期ごとに生徒へ授業アンケートを実施し、授業改善推進プランを作成することとおして課題を明確にし、管理職が授業観察して指導・助言を行い、授業改善への意欲を高めていく。	3.3		各教科の年間指導計画や授業改善推進プランに位置付け、計画的に実践していく必要があった。学期末の授業アンケートについては、授業者の振り返りや分析を確認し、管理職による授業観察で実施について指導・助言していく。
	定期考査前等における質問教室、自習教室等を開催したり、家庭での学習計画の作成や課題を明確に示すなど啓発を行ったりする。	2.6	生徒の自学自習に取り組む態度に個人差が見られた。質問教室、自習教室を全校体制で計画的に行っていくとともに、参加を促していく。学習に遅れが見られる生徒には、学校生活支援員や放課後学習室等で個別に対応していく体制を構築する。	2.5		学習習慣を確立するための指導について、学校全体で取り組む必要があった。年度当初に、各教科の学習方法等をまとめたものを生徒及び保護者に周知していく。また、保護者会やすぐー保護者へ周知し、参加を促していく。
豊かな心の育成と道徳教育の充実	生徒一人一人への支援や教え合い・学び合い・認め合いを通して、自尊感情や自己肯定感を高める指導を実践する。	3.4	各教科や行事の中で、自分や相手を認め合う態度を育てていく機会が計画的・継続的に行われていなかった。生徒が達成感や成就感を自己調整するための省察や振り返りを設定し、教師がフィードバックして価値付けをしていく。	3.4	○生徒は、先生に知っていてくれたらと思っているときがある。また、先生との距離感がわからない生徒もいる。いつでも相談してもいいというスタンスを持っていたほしい。 ○支援が必要な生徒や不登校傾向な生徒のための放課後教室を活用するのはよい。	行事等の活動後に振り返りや省察を実施したものの、全ての生徒にフィードバックが完全に行えていないところがあった。生徒の成果を認める活動を丁寧に実施するとともに、公開講座等を活用し、家庭や地域と協働して育む風土を醸成していく。
	教育相談部会を定期的に開催して、関係諸機関と緊密な連携を図り、迅速な対応ができるようにする。	3.2	教育相談や特別支援教育への理解について、教員の中でも差が見られた。支援が必要な生徒にすぐに対応できる学校体制を構築する。また、相談室以外でも生徒が相談できる環境を提供できるように風土の醸成をしていく。	3.3		教育相談委員会をSCとSSWを交えて毎週開催し、支援が必要な生徒にすぐに対応できる学校体制を継続していく。2か月に1回こころのアンケートの実施、SC面談、放課後学習室など相談しやすい環境づくりを進める。
心身の健康と強い意志の育成	凡事徹底や「挨拶・時間・身だしなみ」の徹底、規律と秩序ある学校づくりを推進する。	3.6	挨拶の習慣が定着していなかったり、授業と休み時間のメリハリがつけられていない生徒が少なかった。生活指導部を中心として、全教員が指導方針を統一して指導にあたっていくとともに、教師が率先垂範していく。	3.5	○生徒が当たり前に挨拶ができていないと回答しているところは、三中の優れたところである。それが三中の文化であり引き続き指導をしてほしい。	生活指導部会を毎週開催し、各学年の生活指導上の課題を学校全体で共有し、学校全体で指導にあたる組織作りを継続していく。学校だけでは解決が難しい課題については、関係機関に迅速に連携し解決を図る。
	学校行事等や生徒会活動等、生徒が主体的に活躍する場を設定して、生徒の自治的活動を支援する。	3.4	委員会ごとに主体的な活動の工夫に差が見られた。また、役割が任されていない生徒が活躍できる場を提供していく必要がある。各学級や学年で自治を意識させた目標を計画して取り組みせ、集団のために活動する意義を実感させていく。	3.4	○生徒も先生も頑張っている。 ○読書の推進は難しいところもある。最近は動画やスマホで情報がたくさん入っている。朝読書や読書郵便など様々な取組にチャレンジしているのは素晴らしい。	生徒が運営する場面を設定しているが、一部の生徒学校行事ごとに振り返りを確実に実施し、委員会や係に所属していない生徒についても自身の成長を感じさせるとともに学校への帰属意識を醸成できるようにしていく。
	朝読書や読書に関わる活動を通して、読書に親しみ、読書習慣が身に付くようにする。	2.8	読書が日常化している生徒に差があり、読書を主体的に親しむことができない生徒がいた。朝読書や読書郵便、教員のおすすめ本の紹介など、図書委員会の活動を充実させ、本に親しむ機会を設定して取り組ませていく。	2.7		朝読書や読書郵便など本に親しむ環境づくりを行ったが、家庭での啓発が十分でなかった。今後も朝読書の時間を大切にして、全校体制で読書推進を行っていく。
学校づくり	学校便りやホームページ等を通して、教育活動を積極的に公開・発信する。	3.5	学校での取組について、断片的な情報しか届けられていない状況があった。定期的な学校便りや学年便りだけではなく、学校ホームページの内容の充実、一斉配信サービス「すぐー」の積極的な活用を行う。	3.5	○すぐーを有効活用してほしい。 ○情報発信ができてと思う。	わかりやすく伝えるためのホームページの機能が十分でない。定期的な学校便りや学年便りの発行し、最新の情報は学校ホームページやすぐーを活用して情報発信を日々実施していく。
業務改善	会議や学校行事の精選、ライフワークバランスについて各教職員が目標をもち取り組む	2.7	教員の中で、多忙感や負担感が根強い状況が見られた。校務の見直しを図るとともに、教員自身の働き方を見直すために、ライフワークバランスの目標を設定させ、自己申告を通して取り組み状況を確認していく。	2.9	○先生方のメンタルヘルスについてSCを活用するなどして先生方のケアにも取り組んだ方がよい。	1学期末に各教員に自身の働き方について振り返らせ、改善を図ったが、多忙感を感じている教員が存在している。休暇の取得について推奨するとともに、教員の負担感の改善や校務改善の意識の向上に努めていく。